

## 朝の会の光景から

朝の会が始まっていて、その教室に入ったとき、一人の生徒がカバンを机の上に置いて参加していました。担任はどうするかと思っただけで見ていたところ、会が進む中、その生徒に声をかけに行きました。後で尋ねると、「片付けようか」と優しく声をかけたとのこと。それは良しとしても、もっと早く気付いて手を打つべきだと私は考えました。

「私だったら、朝の会を始めさせないなあ。カバンを出して、たその子にも事情があるのだから、その子が朝の会に臨む準備ができるまで仲間には待ってもらおうよ。全員そろったところで、待ってくれたことに礼を言っ、その後、司会者に朝の会を始めさせるよ。」

その担任が別件で校長室に入ってきたとき、私はこのように声をかけました。会が始まっている途中であっても声をかけたことは褒めながら、自分の経験から、そういう場合取るべき担任の行動を話しました。

「同調圧力」という言葉を聞いたことありますか。最近の新聞にも載っていました。今の時代だからスポーツライトを浴びるようになった言葉です。「周囲の多くの人と同じように考え行動するように、暗黙のうちに強制すること」を意味します。

学校生活には、全員が同じ足並みで取り組む活動がたくさんあります。その最たるものが体育的行事です。しかし、運動が苦手、体力に自信がない、大きな声が出せないなど、さまざまタイプの子がいます。大きな声が出せないなど、さまざまタイプの子がいます。大きな声が出せないなど、さまざまタイプの子がいます。大きな声が出せないなど、さまざまタイプの子がいます。

確かにその通りです。個人の特徴や考え方が大切にされる時代です。十把一絡げじゅうはいつらっけ的なやり方は早急に見直す必要があります。しかし、誤解しないでください。自分の判断や考え方が全て認められるということではありません。それらも大切にしながら、仲間と足並みをそろえることが必要です。以前書いた孔子の言葉「君子は和して同ぜず」がここでもあてはまります。先のカバンの例でいうなら、カバンが机の上にあつたということは何か事情や考えがあつたのか、もしかしたら、まずそこを周りは知るべきです。そして、強制ということではなく、片付けることができるなら待つ優しさで、仲間に接することが必要です。このことは、担任だけではなく、会を進める司会者にも心がけてほしいと思います。

あえて最悪を示します。カバンを机上に出している生徒がいるにもかかわらず、担任も仲間も声をかけず、何ごともないように会が進んでいくこと、これは学校生活において絶対あつてはならないことです。瑞浪北中はそういう学校ではないと私は思っています。そして、これからもそういう学校でありたいと願っています。